

冬春きゅうり

1 現状及び課題

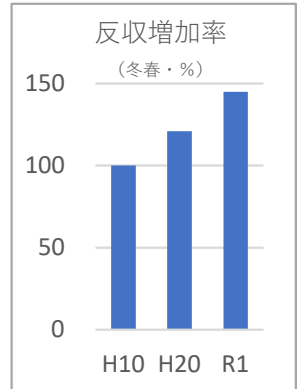
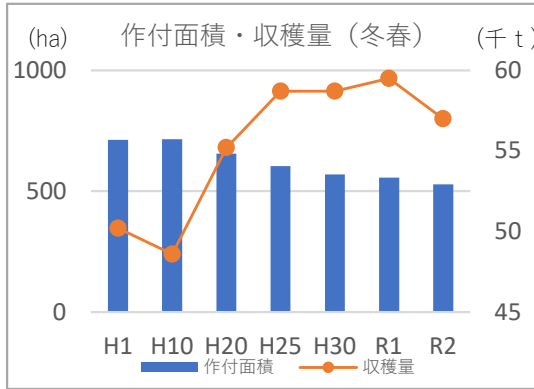
項目	H22	H30	H30/H22
栽培面積	641ha	570ha	89%
生産量	54,500t	58,700t	108%
全国順位	1位	1位	→
全国シェア	18%	20%	111%
産出額	180億円	176億円	99%

※ 出典：野菜生産出荷統計、生産農業所得統計（農水省）

項目	H22	H30	H30/H22
栽培戸数	2,472戸	2,410戸	97%
平均面積	23a	23a	100%

※ 出典：市町村集計（宮崎県調べ）

- **平均単収**（※ 主要産地 J A 部会 R2 実績）
 - ① 促成つる下ろし：18.2t
 - ② 促成摘心：10.1t
 - ③ 早熟：9.1t
- **平均年齢**：58歳（※ 主要産地 J A 部会）
- **環境制御技術導入率**（※ 宮崎県調べ）
 - ① 炭酸ガス発生装置：約30%
 - ② 環境測定装置：約15%
- **ハウス経過年数**（※ NOSAI 連ハウス引受実績）
 - 15年以上：7割



※ 出典：野菜生産出荷統計（農水省）

【解決すべき事項】

1. 担い手・後継者の減少
2. 栽培面積の減少
3. 生産基盤の老朽化
4. 労働力不足・時期的偏り
5. 生産コスト上昇・経営の不安定
6. 2050年、化石燃料を使用しない施設園芸への移行



2 産地の目指す姿（目標：令和7年度）

収量 25 t / 10aを目指します！（10～6月収穫）

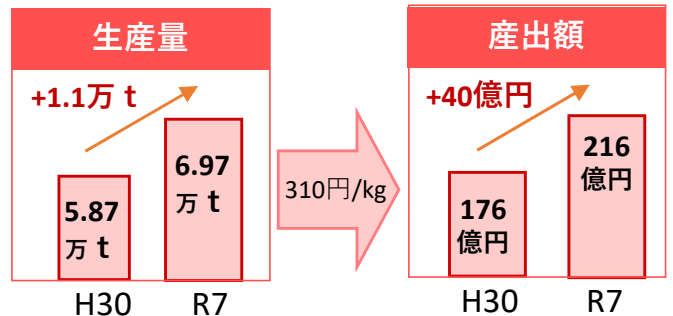
- ・収量 35 t / 10a の生産者がいます
- ・複合環境制御装置の導入が進んでいます
- ・環境制御技術ノウハウを県内で共有しています
- ・高軒高ハウスで周年栽培を行う生産者がいます

効率的な経営・産地をつくります！

- ・30 a で農業所得900万円以上の生産者が身近にいます
- ・農家・地域ごとのビジョンが明確です
- ・担い手を中心にハウスを団地化しています

持続可能な産地を目指します！

- ・産地の維持に必要な新規就農者を確保・育成しています
- ・新たな取組に果敢にチャレンジする生産者が増加しています。
- ・環境負荷軽減に取り組んでいます



- **目標収量 35 t / 10a**（トップランナー）
 - ・粗収益：3,300万円
 - ・経営費：2,270万円
 - ・農業所得：1,030万円（経営面積30a）
- **目標収量**
 - ・粗収益： 万円
 - ・経営費： 万円
 - ・農業所得： 万円（経営面積30a）

経営モデル調整中

3 生産者が取り組むこと

1. 新規就農者（仲間）を育てます

- 就農希望者の研修受入
- 部会勉強会・各種研修会への誘導

2-1. 経営戦略を考えます

- 経営状況、労働力に応じた規模拡大
- 企業型経営（周年雇用）への発展

2-2. 反収を増加します

- スマート農業技術の導入
 - ・ 環境制御技術
 - ・ 養液土耕栽培、養液栽培
- 宮崎方式 I C M の実践
 - ・ M Y S V、つる枯病などの対策強化
 - ・ 耐病性品種の検討



3. 生産基盤を強化します

- 新たなハウスの導入
- ハウスの補強による長寿命化
- 集出荷場の集約・機能強化

4. 労働環境を改善します

- 省力化技術の導入による作業軽減化
- 作業環境の改善（G A P の実践）

5. 販売力強化・経営安定に取り組めます

- 土壌診断、物理的防除等による肥料・農薬使用量の削減
- 適正温度管理によるエネルギーの削減
- 品質の向上による販売力の強化
- 出荷予測等による有利販売の展開
- 出荷資材の統一化の検討
- 価格安定制度・収入保険制度の活用
- 施設園芸セーフティネット構築事業の活用

6. 化石燃料の使用量削減に取り組めます

- 省エネルギー対策の徹底
- ヒートポンプ等の活用によるA重油使用量削減
- 開発される新たな技術の活用・導入



「経営戦略」で目標を設定。検証・改善で経営力を強化

4 関係者が支援すること

1. 新規就農者を確保し、育成します

- 県内外の就農相談会実施
- トレーニングセンターの充実・拡大
- 独立自営に向けた研修後の出口対策強化
 - ・ 就農計画、農地・施設、資金、技術指導等

2. 生産者の経営戦略・反収増加の取組を支援します

- 経営戦略・ビジョンに基づく支援の強化
 - ・ 意欲ある担い手に対する支援の重点化
- 反収増加の取組支援
 - ・ スマート農業技術の普及・定着の推進と技術指導者の育成
- 高収益で省力的な栽培体系の確立
 - ・ 高軒高ハウスによる養液栽培技術
 - ・ 雇用型経営のための省力的栽培方式
- 産地分析・P D C A の実践啓発



3. 生産基盤を強化します

- 経営戦略に応じた施設等整備の支援
 - ・ 災害に強いハウスの整備支援
 - ・ 養液土耕栽培、養液栽培の導入推進
- 団地化・集約化のビジョン策定
- ハウスの低コスト化の実現

4. 労働力の確保を支援します

- 援農システムなど労働力確保支援体制の強化
 - ・ 農福連携、地域内労働者、外国人労働者等
- 地域の実情に応じた分業体制の検討
 - ・ ビニール展張、防除・収穫、集荷作業等

5. 販売力を強化します

- みやざきブランド商品力の強化・生産拡大
- 等階級や出荷資材の規格統合・簡素化
- 共同輸送やルート之最適化による物流効率化
- 集出荷場の集約・機能強化
- 販売先・消費者に対する再生産価格の理解醸成

6. 化石燃料の使用量削減を促進します

- 新たな省エネ技術の検証と導入推進
- ヒートポンプの導入支援

経営戦略と産地・地域ビジョンの連動、支援の重点化で産地力を強化